3/10 日本海

福井市

保健所ひっ迫 応援検討

新型コロナ 再増員へ 他業務精査

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、福井市は九日、保健所業務への全庁的な応援態勢を再確認した。保健所で感染症対策を担う「保健予防室」は通常十人体制。今月からは最大八十人が従事しているが、東村新一市長は「市民の命に関わる問題」として増員の可能性を示唆。その他の業務の一時的な中断、縮小もやむなしとの考えを示した。＝⑪面参照（北原愛）

市役所で開かれた臨時全体部長会議で、東村市長は「県内の新規感染者数は七日に過去最多の五百五十九人。このままでは保健所の機能維持が難しい」との認識を示した。市内では子どもを通じた家庭内感染の増加で、高齢者への感染が危惧される状況。入院調整などを行う保健所業務の重要性を強調し「さらなる応援が必要となった場合について準備を」と各部局に指示した。

オミクロン株による第六波の収束が見通せない中、市は二月から他部局職員の保健所への派遣を始め、今月からは一日当たり最大二十六人の派遣が可能な応援態勢を確保。県看護協会や人材派遣会社のスタッフも加わって業務を分担してきた。保健師の負担軽減に向けて、四日からは応援職員も感染経路や濃厚接触者を特定する「積極的疫学調査」に従事。八日には時間差出勤なども導入した。

保健所への職員派遣ではこれまでも自然史博物館の臨時休館（二月十七日～今月三日）など柔軟に対応してきた。窓口での職員体制の縮小や業務時間の短縮などが市民サービスになるべく影響しないよう、各部局で業務内容の精査を急ぐ。

自治会デイホーム休止

県特別警報発令 体育施設は停止

県の感染拡大特別警報の発令を受け、福井市は九日、新型コロナの重症化リスクが高い高齢者対策として、二十一日まで自治会型デイホームの活動を休止する方針を示した。感染が広がる小中学校での対策を徹底し、同日まで体育館やグラウンドなど市内体育施設の利用も停止する。

市新型コロナウイルス感染症対策本部会議が市役所別館であった。市内で二月十二日から連日百人超の新規感染者が確認され、今月七日は過去最多の二百四十四人だった。東村新一市長は「子どもを介した感染の連鎖が止まらない深刻な状況だ」と述べ、対策の徹底を各部に呼び掛けた。

高齢者対策では、自治会型デイホームの活動休止に加え、いきいき長寿よろず茶屋などの活動の自粛を要請。美山楽く楽く亭や清水高齢者福祉センター、すこやかドームで予定されていたイベント、講座は中止する。

小中学校では合同体育や、学年集会など他学級との交流、部活を引き続き控えるよう周知した。公民館の利用は地区住民や地域団体に限定し、使用時間は午前九時～午後八時。屋内利用は一回当たり一時間に制限する。足羽山公園遊園地の屋内展示室「ハピジャン」での動物とのふれ合いは十日から中止。（北原愛）